

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 ハビステ谷山		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 6日		2025年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	37名	(回答者数) 33名
○従業者評価実施期間	2024年 12月 16日		2024年 12月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 12月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	各職種が様々な視点から活動計画表を考え、児の目的に沿って楽しさを入れた活動を行うことができている。	利用児が活動を楽しめるように、できるだけ同じ内容の活動は避け、同じ目的でも利用児の活動に対する感じ方が変わり飽きさせない活動を行うように意識をしている。	決められた空間の中で少しでも利用時に多くの経験をしてもらえるように、職員でアイデアを出し合って机上活動や運動遊び、創作活動を行っている。
2	SNSなどのツールを使ったり事業所の見学など保護者様が相談しやすい環境を作り、情報共有を積極的に行える体制づくりを整えている。	保護者様や園と情報交換・情報共有を積極的に行い、統一した支援ができるように職員が意識するようになっている。	季節に応じたイベントなども積極的に支援に取り入れ、玄関に四季を感じるイラストなど掲示を行っている。
3	職員同士や園、保護者との情報共有が積極的に行われ、利用児に対してのプログラムや目標の更新が常に行われている。	児の気になる部分を減らし、目に付くものを少なくし、落ち着いて行動ができるよう環境調整を行っている。	保護者と一緒に児の活動を見たり、活動をしったり振り返る時間を増やしていきたい。家や園での関りに即した事業所での支援をもっと伝えていきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者間での交流機会などの場を設けることができていないこと。	地域交流会や就学相談会など新しい取り組みを行っているが、保護者同士の交流会の機会まで設けることができていなかった。	保護者様向けに交流機会についての意見を聴取りし、期待に副えるイベントが用意できるように検討をしていく。
2	各種マニュアルの整備を行っているが、保護者への提示方法までは確立していない。	マニュアルは数多く存在するため、保護者への説明となると多くの時間を必要とするため、現状でより良い方法が確立できていなかった。	ホームページやInstagram等のツールを利用して幅広く保護者へ説明できる機会が提供できるように工夫を行っていく。
3	避難訓練など非常災害の発生に備えた対策の周知が不十分である。	Instagram等のツールを用いて避難訓練の様子などの発信を行えているが、まだ発信力が弱いいため更なる広報の必要性が考えられる。	避難訓練の実施や緊急時の対処法などホームページやInstagram等のツールを利用して幅広く保護者へ説明できる機会が提供できるように工夫を行っていく。